

第2学年1組音楽科学習指導案（学習指導案）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山下, 美帆 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010394

第2学年1組 音楽科学習指導案

指導者 山下 美帆

1 学習のくくり「文化・歴史と音楽とのかかわり」（35時間）

2 共通テーマを軸とした教科カリキュラムの構想図

音楽科3年間でめざす姿

幅広い音楽活動を展開する中で、音楽がもつ文化的な価値・伝えたい感情を他者と共有させながら、自分の音楽美の世界を広げ、自己の豊かな生き方や、豊かな社会のあり方を探ろうとする生徒

学習のくくり名

共通テーマ

・学習活動

音楽科3年間の共通テーマ

音や豊かな感性で人と人との心をつなぎ、互いによりよい未来の創造をするには

〈音楽科3年間の共通テーマ〉

音や豊かな感性で人と人との心をつなぎ、互いによりよい未来の創造をするには

心と音楽とのかかわり（3年）

人と人とかかわり、心を通わせ、よりよい未来へとつなげる音楽とは

- ・多様な音楽表現と感情とのかかわりを探る。
- ・よりよい未来を創造するために、これから人はどのように音や音楽とかかわっていったらよいのかを探る。
- ・音楽と自己の生き方とのかかわりや社会のあり方をまとめる。

自然・環境と音楽とのかかわり （1年）

自然や、環境の中で生まれた音楽を生かして豊かに生きるとは

- ・身の回りの音と音楽とのかかわりを探る。
- ・諸民族の生活や環境の中で生まれた民族性と音楽とのかかわりを探る。

文化・歴史と音楽とのかかわり （2年）

伝統を守り文化を継承する伝統音楽と、時代に合わせて発展し創造する音楽文化の価値とは

- ・日本の伝統音楽と歴史とのかかわりを探る。
- ・ヨーロッパの文化や歴史と、音楽の歴史的変遷とのかかわりを探る。

3 学習のくくり「文化・歴史と音楽とのかかわり」について

(1) 学習の構想表

学習活動 (下線部は本時の学習場面)		育成する資質・能力の要素と 階層レベル							
		知識		スキル			情意		
		A 内容	B 方法	C 認知	D 身体	E 社会	F 興・関	G 追究	
ガイ ダンス (2)	《共通テーマと共通課題の理解》 ○音楽史の全体像をつかみ、生活にあふれている音楽がどのような時代の流れの中で今の状態に至ったのかを理解する。 ○人の生活にとっての音楽文化とは何か。伝統音楽の特徴から、歴史的背景やその時代の人々にとっての音楽の意義を考える。また、共通テーマや共通課題について理解する。	1 2	1 2	1 2	—	—	2 3	2	
	3 4		3						
	つかむ学 習 (26)	○西洋音楽の変遷と歴史（表現・歌唱） ルネサンスからバロックまでの単旋律から多声音楽、そして和声音楽に至るまでの音楽の特徴を理解し、音の重なりを意識して合唱に取り組み、調和の取れた響きを創り出す。（3）	1 2	1 2	1 2	2	2	2	2
		○西洋音楽の変遷と歴史（鑑賞） 形式による楽曲構成や、演奏形態の大規模化による表現の広がりを行いながら発展を遂げた器楽曲を鑑賞する。（3）	2 3	2 3	2 3	—	2	2 3	3
○日本の伝統音楽と歴史(鑑賞) 日本の伝統音楽の変遷について理解するとともに、音楽の特徴を感じ取る。（4）		1 2	1 2	1 2	—	2	2 3	3	
○日本の伝統音楽と歴史（表現・歌唱、器楽） <u>江戸時代中期以降の日本の伝統音楽「歌舞伎」について理解し、とらえた音楽の特徴を意識して声または楽器で表現する。</u> (本時 3 / 3) 日本歌曲を歌唱し、我が国の自然や四季、文化、日本語のもつ美しさを味わいながら、我が国の音楽文化に愛着をもつ。（3）		2 3	2 3	2 3	2	2	3	3	
○西洋音楽の変遷と歴史（表現・歌唱） 楽曲の構成による音楽表現の工夫や、調和のとれた響きを意識して混声合唱をする。（4） 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連に着目し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受して合唱する。（6）		2 3	2 3	2 3	3	3	3	3	
追究 する学 習 (5)	《追究課題の設定》 ○共通課題を受けた追究課題の設定（1） 伝統や文化を継承する伝統音楽と時代に合わせて発展し創造する音楽文化について追究課題を明確にして追究方法を考える。	3		3	—	2	3	3	
	《追究活動》《交流活動》 ○自分が語る内容をレポートにまとめる。（2） ○仲間との交流を通して、共通テーマに対する考えを深める。（2）	3		3	—	3	3	3	
つな げる学 習 (2)	《振り返りの記述》《振り返りの記述の交流》 ○これまでの学習を振り返り、共通テーマに対する自己の最適解をまとめたり、仲間との交流を通して考えを深めたりする。								
	【期待する生徒の表れ】 ・我が国の伝統音楽のよさや粹に感じたことを、交流活動をして得た他者の考えをもとに、より深めて記述している。 ・時代の変遷の中で発展していく音楽を、文化と歴史の視点からとらえ、自分にとっての音楽の魅力や価値を他者に伝えている。など	4		4	—	2	3	4	

（２）本学習のくくりでめざす生徒の姿とその姿に迫るための具体的な手だて

本学習のくくりは、我が国と諸外国の音楽文化の成り立ちや変遷など音楽文化そのものの歴史と、その当時の人々のくらしや考え方などとを関連づけて、先人たちが残してきた音楽の特徴について理解を深めていくことをねらいとしている。合わせて伝統や文化を学ぶ過程において継承しつつ、さらに、時代に合わせて自分たちで発展させていこうとする豊かな感性や創造力も育みたい。「人の生活にとっての音楽文化とは何なのか」を考え、音楽の必要性やその理由を自分なりに見だし、意義や価値を実感させたい。また、国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で、自らの国や郷土の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身につけてこそ、グローバル社会の中で、自分とは異なる文化や歴史に敬意を払い、これらに立脚する人々と共存することができると考える。そこで、本学習のくくりでめざす生徒の姿を次のように設定する。

先人たちが歩んできた歴史とその中で生まれた音楽文化とのかかわりを見つめ直し、より豊かな生活をしていくために、時代の変遷の中で発展していく音楽の魅力を見いだす生徒

本学習のくくりでは、上記のめざす生徒の姿に迫るために、次の学習活動に取り組ませる。

まず、ガイダンスにおいて、音楽史の全体像をつかむとともに、伝統音楽がどのような歴史的流れで今の状態に至ったのかを知る。合わせてCMソングを用いて日常生活の中で、歌舞伎やオペラのように音楽を中心に文学（物語）・舞踊（演技）などさまざまな要素が密接に結びついている総合芸術の魅力に触れていく。さらに学習計画表を示して共通テーマや共通課題を提示することで今後の学習活動について確認し、本学習のくくりにおける最適解についておぼろげながらにイメージさせていく。

つかむ学習では、自国の音楽である「日本の伝統音楽」と、現在の日本で身の回りにあふれている「西洋音楽」の２つを学習内容の大きな柱として学習を進めていく。音楽科での主体的な学びの実現のためには、音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させることが重要である。そこで鑑賞と表現の指導を関連させながら歌舞伎の場面に合わせたイメージや感情を喚起させる要因となった音楽的な特徴を探らせ、表したい音楽表現や音楽のよさを見いださせるために、他者との交流活動を取り入れることで活動の充実を図り、主体的・対話的な学びの過程の実現をめざしていく。

追究する学習では、共通課題をもとに自ら追究する主体的な学習を展開する。「歌舞伎」は音楽と演劇、舞踊、文学、美術などの要素が融合した総合芸術で「ユネスコ無形文化遺産」に登録されるなど、日本の伝統文化を象徴する存在として世界からも注目を集めている。このような観点からも伝統芸能とその音楽を取り上げ日本の伝統文化に対する理解を深めて、伝統や文化の継承をして、文化の発展を担う社会の一員として考え、追究していく。さらに、つなげる学習の段階では、「人の生活にとって、音楽文化の価値とは何か」を考察しながら、人々が生活の中で音楽の必要性を感じ、音楽のもつ力とその可能性から、それらが自分たちのより豊かな生き方やあり方につながっていくであろうことを予測している生徒の姿を期待している。学習計画表の学習内容のまとめりと共に共通テーマに対する気づきのメモを記入させ、自分なりの考えを深めさせることで最適解へと導いていく。

（３）本学習のくくりの共通テーマと共通課題

共通テーマ (本質的な問いの 階層レベル)	伝統を守り文化を継承する伝統音楽と、時代に合わせて発展し創造する音楽文化とは（レベル ⁴ ）
共通課題	人と文化、歴史とのかかわりを音楽の視点から見つめ直して、自分にとっての音楽のよさを考えながら音楽の魅力や価値をレポートにまとめよう。

４ 本時について（本時 15 / 35）

（１）本時の目標

【音楽への関心・ 意欲・態度】	感受した長唄の特徴を生かして、積極的に長唄を唄おうとしている。 (^A 2 × ^F 3)・(^G 3)
【音楽表現の創意 工夫】	物語の様子や演技と、長唄を関連させながら、場面に合った唄い方を工夫することができる。 (^A 3 × ^C 3)・(^E 2)

(2) 学習過程

●生徒の活動 ※期待する生徒の表れ	・指導上の留意点 ○支援 ◇評価
●本時の学習課題と見通しをつかむ。	
物語の様子や演技と、長唄を関連させながら、場面に合った唄い方を工夫しよう。	
●前時の復習として長唄を鑑賞する。 ●長唄の歌詞を音読する。 ●長唄をリズム唱する。 ●模範演奏と一緒に唄う。 ●場面をイメージするためにDVDで詰合いの場面の映像を見る。 ●自己課題を設定してワークシートに記入する。 ●自分の声を録音して確かめたり、4人でお互いの声を聴いたりしながらグループ練習をする。 ●意見交流して得られた意見をワークシートにまとめる。 ●全員で模範CDに合わせて唄う。 ●DVDの映像に合わせて一緒に唄う。 ※感受した長唄の特徴を生かし、積極的に長唄を唄おうとしている。 ※物語の様子や演技と、長唄を関連させながら、場面に合った唄い方を工夫している。 ●本時の学習を振り返り、共通テーマについて考えたことや気づいたことを学習計画表の「気づきのメモ」に記入する。	・声の音色、節回し、リズム、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせる。 ・言葉のまとまりを意識しながら、一つ一つの言葉を丁寧にはっきりと音読するように指示する。 ・音程はつけず、拍節を正しくとるように指示する。 ・声の音色や節回しの特徴を感じ取って模唱するように指示をする。 ・緊張感が高まる場面であり、テンポよく歌われるこの部分を鑑賞することにより、歌舞伎に興味をもち、長唄の魅力に迫ることができるようにうながす。 ・模範演奏の音に近づけるためにはどのような長唄の特徴を生かして唄えばよいか自己課題を見つけさせる。 ○課題の書けない生徒には、発声、音の高低や産字、唄い尻について記入するように助言する。 ・歌詞の大意をつかみ、歌舞伎の内容とも関連づけながらどのように表現を工夫すればよいのか考え、練習させる。 ・発声や姿勢などはどのようにしたらよいか、唄い方をどのように工夫するかを考え、意見交流させる。 ○特徴が見つけにくい生徒には、模範演奏の音に近づくよう、間、リズム、節回し、産字、唄い尻、言葉のアクセント、などについて考えてみることを助言する。 ・歌舞伎は、歌・舞・伎が一体となった総合芸術であることを意識し、場面に合った長唄の唄い方を工夫するように指示する。 ○よい響きの出せない生徒には、曲種に応じた発声や言葉の特性を出すための条件は何かを考えるよう助言する。（・姿勢・発音・地声でお腹から声を出す） ○場面に合った緊迫感のある歌唱ができた生徒には、さらに長唄らしく唄う視点を明確にした上で、最初より上達したことや課題を振り返らせる。 ・本学習のくくりにおける共通テーマに対してどのような気づきを得たのかを、これまでの気づきのメモを振り返りながら記入させる。 ◇本時の目標について、※印のような生徒の表れが見られたか。